

4928 ノエビアホールディングス

大倉 俊 (オオクラ タカシ)

株式会社ノエビアホールディングス代表取締役社長

消費増税の影響から回復し増収増益を目指す

◆2015年9月期第2四半期業績ハイライト

2015年9月期第2四半期の売上高は236億35百万円(前年同期比9億65百万円減、3.9%減)、営業利益35億63百万円(同10億79百万円減、23.3%減)、経常利益39億26百万円(同8億77百万円減、18.3%減)、四半期純利益14億99百万円(同7億70百万円減、34.0%減)であった。当期は、期初予想値に消費増税による反動減を織り込み済みであった。四半期純利益については、税制改正の影響があった。

化粧品事業の売上高は164億94百万円(前年同期比8億85百万円減、5.1%減)、セグメント利益は42億39百万円(同9億27百万円減、17.9%減)であった。カウンセリング化粧品においては、駆け込み需要の影響を受け、その反動減があった。主力の基礎シリーズ「ノエビア 99 プラス」はリニューアル効果により堅調な売上を確保した。高級基礎シリーズ「ノエビア 505」は、前期にリニューアルを行っており、その効果が一巡したことにより売上が減少した。セルフ化粧品においては、基礎シリーズ「なめらか本舗」ブランドとメイクシリーズの「エクセル」および「毛穴パテ職人」が新商品投入やプロモーションの効果により伸長した。低刺激性化粧品の「ノブ」ブランドは、駆け込み需要の反動減により売上が減少した。海外・OEMにおいては、順調に拡大している。

医薬・食品事業の売上高は61億86百万円(前年同期比4億58百万円減、6.9%減)、セグメント利益は4億60百万円(同44百万円増、10.7%増)となった。医薬品、指定医薬部外品のドリンクおよび栄養補助食品が減少した。「眠眠打破」シリーズは、2015年3月に新商品の高機能ドリンク「激強打破」を発売し堅調に推移した。

その他の事業の売上高は9億54百万円(前年同期比3億79百万円増、66.0%増)、セグメント利益はマイナス1億22百万円(同1億3百万円減)であった。アパレル・ボディファッションおよび航空関連の売上が前年を上回った。

◆堅実な財務内容を維持

貸借対照表については、流動資産が570億22百万円(前年同期比40億7百万円減)となった。主な要因として、2014年11月の自己株式取得並びに消却によるものである。現預金残高が366億87百万円(同26億4百万円減)となっているが、固定負債に計上されている販売代理店からの長期預り保証金156億19百万円を差し引くと、210億68百万円(同19億79百万円減)となる。固定資産は274億82百万円(同18億66百万円増)となった。三重工場のドリンク製造ラインの新設・改修等により、有形固定資産が229億87百万円(同16億64百万円増)となっている。投資有価証券は11億91百万円(同4億33百万円増)である。負債純資産合計は845億4百万円(同21億40百万円減)で、自己資本比率は、前年同期の62.0%から60.7%となっている。

設備投資は、三重工場の設備を中心に19億26百万円で、通期では29億円の計画である。減価償却は上半期に5億42百万円で、通期では11億円の予定である。

◆期末に向けた主な取り組みと業績見通し

当社は、2019年9月期までの中期経営計画を進めている。テーマは、各事業の持続可能な経営による節度ある成長の実現である。前期の通期実績は、売上高 482 億 53 百万円、営業利益 70 億 64 百万円、営業利益率 14.6%、ROE 8.0%であった。2019年9月期には、売上高 530 億円、営業利益 100 億円、営業利益率 18.9%、ROE 10.0%を目指す。

当期の通期業績に関しては、足元の状況も順調に進捗しており、当初予想を変更していない。売上高は 485 億円(前期比 0.5%増)、営業利益は 75 億円(同 6.2%増)、経常利益は 77 億円(同 2.5%増)および当期純利益は 47 億円(同 8.1%増)を見込んでいる。営業利益率は 15.5%となる見通しで、営業利益、経常利益および当期純利益は過去最高益の予想となっている。

化粧品事業のカウンセリング化粧品については、2015年6月発売の最高級美容液「ノエビア ニューロジック 薬用セラム」の拡販に注力していく。全国に約 1,600 店ある「ノエビア ビューティスタジオ」は、重要な顧客接点の場として、引き続きサービスの質の向上を図るとともに、営業に注力していく。また、2015年7月より常盤メディカルサービスにてノエビアブランドの取り扱いを開始する。セルフ化粧品については、「なめらか本舗」シリーズから乾燥によるしわ対応の「リンクルライン」を新商品として発売する。また、「なめらか本舗」、「エクセル」、「毛穴パテ職人」とともに、店頭における更なる拡販を図っていく。「ノブ」は、主力の「ノブⅡ」シリーズをリニューアル発売し、拡販に注力していく。海外・OEM は、アジア市場に引き続き注力するとともに、国内の OEM 受注に努める。

医薬・食品事業については、「眠眠打破」シリーズのブランド強化のため、プロモーションにより更なる認知度向上を図っている。医薬品およびドリンク商品の PB・OEM の新規獲得にも注力している。三重工場のドリンク製造ラインが 11 月頃に稼働を開始する予定であり、これに向け受注の拡大を図っていく。

その他の事業については、アパレル・ボディファッションの新商品を投入し販売促進する。また、航空関連事業では欧米市場の需要に回復が見られるが、引き続き慎重に対応していく。

(平成 27 年 5 月 27 日・東京)

* 当日の説明会資料は以下の HP アドレスから見るができます。

http://www.noevirholdings.co.jp/ir/account/guide/pdf/2015m_shiryo_150527.pdf